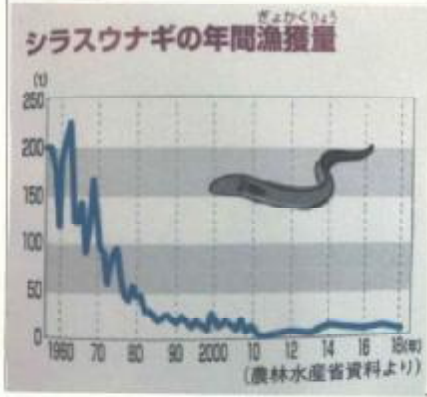


前に海に行つた時ペットボトルが捨てられていた所があり、なぜペットボトルがこんな所にあるのだろうと疑問に思った。学校でSDGsについて調べてみたが、海にプラスチックごみが捨てられていて、魚が減り、このままでは魚を食べられなくなってしまうそうだった。魚を後世でも食べられるようにするにはどうしたらよいのだろうか。魚が減少した原因は私たちが出すごみや排水で海が汚れてしまったことだそうだった。

海がプラスチックのたまり場に見ると、海洋ごみの約90%、60%がプラスチックで、さらに海に流れ出ているプラスチックごみの約80%が陸から流れ出ていることがわかる。

プラスチックごみが陸から多く流れ出ているのは、私たちがプラスチックを多く使うようになり、ポイ捨てなどをする人が多くなったからだと思う。

「シラスウナギの年間漁獲量」というグラフからは、シラスウナギの漁獲量が年々減っている事がわかる。このままプラスチックが流れ続



けるよ、シラスウナギだけでなく、魚は
次第が食べられなくなってしまう。
魚をこれから食べられなくなるよう
にするには、ごみ拾いのボランティアに
参加したり、ペットボトルをリサイ
ルするなど、身の周りから具体的に
な行動することが必要なのだろう。
確かに、今は食べられ続けているが
大丈夫だと思っ、う人もいるかもしれ
ない。しかしまた人類は何十年いや
何百年と地球で過ごしていくのだ。
未来の人類も魚を食べられるよう
にするために自分の身の周りから
できる事をしていきたい。

金田 国谷裕子とチャレンジ!

未来のSDGs ③地球

に関するゴール

Eda TOWN SDGs

世界の国や地域が協力して

持続可能な開発を目指すSDGs

東京まろ